

# 獨協医学会

会 長 稲 葉 憲 之 (獨協医科大学学長)

## 運 営 委 員

千種 雄一*	石光 俊彦**	阿部 七郎	石井 芳樹	板垣 昭代
片桐 一元	国分 則人	小嶋 英史	小林 哲	坂本 秀一
佐々木欣郎	白瀧 博通	杉本 博之	西山 緑	濱口 眞輔
林 啓太朗	福島 央之	宮本 雅之	緑川由紀夫	室久 俊光
森田 公夫	和氣 晃司			

\*委員長 \*\*副委員長

## Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

石光 俊彦*	白瀧 博通**	阿部 七郎	石井 芳樹
佐々木欣郎	濱口 眞輔	福島 央之	宮本 雅之

\*委員長 \*\*副委員長

## 編集事務員

鯉沼 行子

## 編 集 後 記

Dokkyo Journal of Medical Sciences (DJMS) Vol. 44, No. 2の発刊にあたり、読者ならびに獨協医学会の会員の皆様にご挨拶を申し上げます。本号には原著(英文)3編、症例報告(和文)2編、短報(英文)1編、計6編の論文に加え、平成28年12月3日に開催された第44回獨協医学会の抄録が掲載されています。例年この時期は論文数が少なくなっていますので、会員の皆様には是非積極的に日頃の研究成果や臨床経験の成績をご投稿頂きたくお願い致します。また、編集部では投稿された論文の査読の依頼に苦慮することがあります。それは、著者が所属する講座の方に査読して頂くことはできませんので、他の講座の方をお願いするのですが、専門領域とは関係が少なく、断られることもあります。なかなか2人の査読者が見つからない場合には私自身が査読することもあるのですが、専門誌ではありませんので、専門外の内容であっても、論文の形式や方法、結果そして導き出された結論の妥当性を評価することはできないことではありません。内容を通覧し、多少なりとも関係があり評価することが可能であると思われる方に依頼を出しておりますので、その折にはどうぞよろしくお引き受け下さいませようお願い致します。

2017年、第111回の医師国家試験では、獨協医大の卒業生は27名が不合格となり、残念な結果でした。これは、本学に限らず全体的に近年では最低の合格率となっており、厚労省、文科省は医学部の定員は増やしたものの、国家試験の合格率を調整することにより医師数を制限した感があります。今後もこの傾向は続く予想されており、医学生にとっては厳しい状況になりそうです。

また、専門医制度の方も混乱しており、特に専門性の低い

内科が認定医と専門医の2段階があり、加えて総合診療の専門医との関係など未だに先が見えない状況です。新臨床研修制度が始まってから大学病院に残る研修医が減少し、多くは専門医の資格を取得することによるキャリアアップを考えていると思われませんが、そのステップが不明瞭であると若い医師達の進路選択に影響することが懸念されます。そもそも、専門医制度で医師の偏在や地域医療の不足を改善しようという方針に問題があるように思います。

大学では研究を行い発表、論文を作成することにより、学位を取得することができ、大学に勤務する医師のモチベーションの1つであると思います。研究といっても医者の仕事をしながらになりますので、基礎医学の研究に多くの時間を費やすことは難しく、患者様を対象とした臨床研究を行うことが多くなりますが、昨今、臨床研究に関し倫理的な基準が厳格になってきており、研究計画、インフォームドコンセント、COIなどを明確にすることが求められています。文科省の方針も学位の認定にあたっては客観的な評価や国際性などが高められ、学位論文は英文が原則となりつつあります。また、臨床の講座で年70報以上の英語論文を発表することが特定機能病院の認定基準になっていることから、英文による論文発表が勧められています。現在、本誌の編集とともに大学院の教学部長を務めており、研究の推進や論文発表にはすくなく関わりの立場にありますがこのようなことで研究や論文発表のハードルが高くなり、大学に勤務する医師のリサーチマインドの妨げとなることは好ましくありません。本学において研究活動が適切かつ活発に行われ、英文論文の発表が増加するよう力を入れたいと思いますので、会員の皆様のご協力を宜しくお願い致します。(石光俊彦)

2017年7月20日印刷

第44巻 第2号

2017年7月25日発行

編集発行人

獨協医学会

稲 葉 憲 之

発行所

獨協医学会

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地  
獨協医科大学  
Tel (0282) 86-1111 (内線2009)

製 作

教 文 堂

〒162-0804 東京都新宿区中里町27  
Tel (03) 3260-6136